

フォーカス チャーティング②

— これからの看護記録
試みと展開

前号では、当院における看護記録が、試験導入を経て、経時記録からフォーカスチャーティングに移行するまでを掲載しました。今回は、その後の動きと課題や成果について、お伝えします。

フォーカスチャーティング 導入と監査

事前に全看護スタッフに向けた研修、指導などの準備を重ね、平成13年6月から全ての病棟でフォーカスチャーティングを導入した。各病棟の記録検討委員は師長と連携して、常にスタッフの記録をチェックし、基本原則に則って記録できるように、きめ細やかに指導を行っていった。フォーカスチャーティングは特許商標®マークがついており、アレンジすることは禁じられている。そのため、正確に導入し効果をあげるには、看護記録の監査が重要となる。

記録検討委員は3ヵ月に一度、記録監査表に従って監査を実施。スコア化して評価し、記録の進捗状況と、問題点や課題を明らかにしたうえで、個別にアドバイスしていった。記録監査表には、看護計画を評価する項目もある。平成14年1月の監査では、看護計画の充実度が低いことがわかった。



▲ 記録検討委員会

記録検討委員会は、看護計画を臨床に生かすために、看護計画とフォーカスチャーティングの連動(連動記録)に向けた研修を通りかかった。これら頻繁に行う研修を通して、スタッフ間の理解も深まってきた。

そして、8月より表2のような連動記録を開始した。平成15年に入って、アセスメント能力が全体的にアップし、看護計画に個別性が見られ、連動記録は少しずつ定着していった。

平成15年6月、かねてから検討を重ねていた「フォーカスチャーティング記載基準」をまとめ、これに従った記載方法や内容などの院内表記を統一した。

看護記録は「これから」

フォーカスチャーティング導入から2年が過ぎ、アンケート調査を行

表2. 連動記録例

●問題リスト	#1	清潔観念の低下のため、清潔の保持が不十分である。	
●看護目標	#1	髭剃り、洗面ができる。	
●看護計画			
月日	問題	具 体 策	評価
8/1	#1	OP 1-1 髭剃り、洗面の状況 2 食事の摂取状況 TP 1-1 髭剃り、洗面の声かけ、確認、支援 2 電気かみそりの掃除の確認と支援 3 髭がのびている口の周りが汚れている場合はそのつど声をかける 4 食事のときはおしぼりを用意し食後に拭いてもらえるようにする 5 箸と箸箱の洗浄を声かけ 6 無理強いはいしない EP 2-1 清潔、不潔について説明 2 食事を急がず摂取するように説明	9/1

月日	時間	F	D	A	R	サイン
8/2	19:00	落ち着かない様子	D: 廊下に立ったり、ベッドに座ったり、煙草を吸いに行くがひとつのことに集中できない様子で廊下とベッドを往復している。声をかける。「うん」「なんともない」と返答するが会話は続かない。			
8/3	10:00	#1 清潔の保持	D: 着衣の汚染も少なく、ベッド周囲も整っているが口周囲の食べ物の付着と髭の剃り残しが目立っている。 TP 1-3/A: 口周囲の清拭・髭剃りを促す。			〇〇
8/3	18:00	#1 清潔観念の低下	R: 一度自分でやっているためか何度か促すが行おうとしない。 D: 夕食後箸と箸箱を洗っているが、箸箱の中に水が入ったまま持ち歩いている。 TP 1-5/A: 箸箱の洗浄方法について説明する。 R: 急に「わー」と声を上げ箸箱を振り回しながら逃げるように走って部屋へ戻る。			△△

・連動記録の見方: 看護計画の中にあるOPは診断計画、TPはケア計画、EPは指導計画を意味する。計画につけられた番号で、内容の一致を容易に見ることができる。

・TP 1-3/A: #1の問題に対する計画1-3の通りにアクション(ケア)が行われたことを示す。

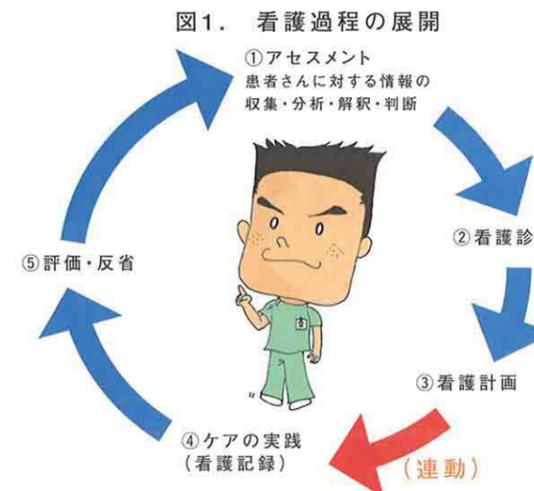
看護過程には、図1のように大きく5つの流れがある【①アセスメント→②看護診断→③看護計画→④ケアの実践(看護記録)→⑤評価】である。このうち特に看護計画が漠然としていないと、記録が不十分となり、患者さんの状態が見えない、看護の流れが見えない記録となる。早速「看護計画充実強化月間」を設け、病棟ごとに看護計画の勉強会を行い、再検討した。

看護計画とフォーカスチャーティングの連動(連動記録)

表1. フォーカスチャーティング 導入の動き

平成13年 4月	・第5病棟で試行後、全病棟にフォーカスチャーティング導入を決定 ・「記録検討委員会」を発足
5月	・全看護スタッフに3回の研修 (看護記録とは/フォーカスチャーティングとは何か/事例を活用した演習)
6月	・全病棟に導入開始 ・各病棟で学習会 (フォーカスチャーティング用語ワンポイント学習、事例検討、記録の添削など) ・記録監査を開始
平成14年 3月	・「看護計画充実強化月間」(3~5月) ・各病棟で看護計画の見直し、勉強会
6月	・連動記録に向けた研修(6~7月) ・個別指導開始
8月	・連動記録の開始
平成15年 1月	・看護計画とフォーカスチャーティングの勉強会5回(1~5月)
6月	・「フォーカスチャーティング記載基準」の完成
10月	・看護計画立案と連動記録勉強会5回実施予定

フォーカスチャーティングとは: アメリカで開発された系統的な看護記録で、ある事柄に焦点(F)をあて、Fの根拠になる利用者の訴え・情報(D)から、実際に行ったケア(A)と、利用者の反応(R)を経時的に記録するものである。



囲も広がってきた。また、本来看護記録はどうあるべきかを「看護記録の開示に関するガイドライン」(日本看護協会・編)を参照し、記録の目的、記載上の注意点などの基本的理解を深め、情報開示に向けた土台作りを並行して行っている。



▲ 看護の本質を見つめ直すスタッフ

「患者さんが見え、看護が見える記録を目指して、フォーカスチャーティングの充実に取り組んできました。充実した記録は、看護なしには作ることができません。いつも傍で患者さんの思いをくみとりながら、安全で質の高いケアをこれからも提供していきたいと思えます」

記録検討委員長 西山千代